プレス関係各位

日頃より東京都庭園美術館をお引き立ていただき誠にありがとうございます。
当館では、2024年6月1日（土）～8月25日（日）の会期で**「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」**を開催いたします。本展は、大正ロマンを象徴する画家・竹久夢二の生誕140年と没後90年を記念して、その生涯をたどり、新発見の作品と新しい研究をもとに紹介する展覧会となります。
ぜひ貴媒体にて本展をご紹介いただけますよう、お願い申し上げます。

展覧会情報

展覧会名	**生誕140年 YUMEJI展** 大正浪漫と新しい世界 ※「生誕140年」「YUMEJI展」「大正浪漫と新しい世界」それぞれの間は半角アキです
英文タイトル	**Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World**
会期	2024年6月1日（土）～8月25日（日）
開館時間	10：00～18：00（入館は閉館の30分前まで）
休館日	毎週月曜日、7月16日（火）、8月13日（火） ※ただし7月15日（月・祝）、8月12日（月・祝）は開館
会場	東京都庭園美術館（本館+新館）
観覧料	一般＝1,400（1,120）円／大学生（専修・各種専門学校含む）＝1,120（890）円 中・高校生＝700（560）円／65歳以上＝700（560）円 ※（　）内は団体料金。団体は20名以上（事前申請が必要） ※ 小学生以下および都内在住在学の中学生は無料 ※ 身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者2名は無料 ※ 教育活動として教師が引率する都内の小・中・高校生および教師は無料（事前申請が必要） ※ 第3水曜日（シルバーデー）は65歳以上の方は無料 オンラインによる日時指定制を導入しています。
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、産経新聞社
監修	岡部昌幸（帝京大学名誉教授）
特別協力	夢二郷土美術館
協力	竹久夢二学会
協賛	JR東日本
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバーグ L.P. Bloomberg Van Cleef & Arpels

展覧会概要

「大正ロマン」を象徴する画家であり、詩人でもあった竹久夢二（たけひさ・ゆめじ）。1884（明治17）年に岡山県で生まれた夢二は、正規の美術教育を受けることなく独学で自身の画風を確立し、「夢二式」と称される叙情的な美人画によって人気を博しました。グラフィックデザイナーの草分けとしても活躍し、本や雑誌の装丁、衣服や雑貨などのデザインを手がけ、暮らしの中の美を追い求めました。

夢二の作品は、没後90年を経た今もなお多くの人々を魅了し続けています。

本展は、生誕140年を記念して、最新の研究に基づく新たな視点からその生涯をたどります。このたび発見された大正中期の名画《アマリリス》、滞米中に描かれた貴重な油彩画《西海岸の裸婦》、そして夢二を看取った友人に遺したスケッチ帖や素描など、初公開資料を含む約180点の作品をご紹介します。

世の中のさまざまな価値観が劇的に変化しつつあった20世紀前半、時代の立役者となった竹久夢二の魅力を存分にご堪能ください。

竹久夢二（1884-1934）

岡山県東南部の邑久郡(おくぐん)本庄村(ほんじょうそん)に父・菊蔵、母・也須能(やすの)の次男として生まれる。本名は茂次郎(もじろう)。神戸中学校に入学するも家事都合を理由に中退し、一家で福岡県八幡村に転居する。18歳の時に家出して上京し、その後早稲田実業学校に学ぶ。雑誌『中学世界』に「夢二」という雅号を初めて用いて投稿したコマ絵が入選し、本格的に画家の道へ進む決意をする。職業画家となって新聞や雑誌のコマ絵やスケッチを手がけるようになり、1909(明治42)年に最初の画集『夢二画集　春の巻』を刊行した。妻・たまきをモデルに「夢二式」と呼ばれた美人画を発表し、一世を風靡した。夢二自ら企画・デザインした着物や小物などの雑貨類は若い女性を中心に人気となり、暮らしを彩った。1931(昭和6)年から産業美術の視察を目的としてアメリカをはじめヨーロッパ各国をまわり、1933(昭和8)年に帰国。翌年、肺結核のため、療養先である長野県の信州富士見高原療養所で亡くなった。

巡回情報

＜岡山＞ 夢二郷土美術館

会期：2024年9月7日（土）～12月8日（日）

＜大阪＞ あべのハルカス美術館

会期：2025年1月18日（土）～3月16日（日）

そのほか富山など全国5～6館を巡回予定です。

会場情報

東京都庭園美術館｜東京都港区白金台5–21–9

［目黒駅］JR 山手線東口／東急目黒線正面口より徒歩7 分

［白金台駅］都営三田線／東京メトロ南北線1 番出口より徒歩6 分

TEL. 050-5541-8600（ハローダイヤル）03-3443-0201（代表）／ FAX. 03-3443-3228

Website　www.teien-art-museum.ne.jp

Follow us on Facebook, X(旧 Twitter）, Instagram　@teienartmuseum

みどころ

その１ 幻の名画《アマリリス》の発見！

すでに名声を確立していた大正中期に描かれ、長年行方不明であった油彩画《アマリリス》。鉢植えのアマリリスの花と共に描かれた着物姿の女性は、後に夢二の恋人となった職業モデルのお葉であると考えられます。この作品は1919(大正8)年福島県での展覧会に出品された後、夢二をはじめ坂口安吾や谷崎潤一郎ら文人たちに愛された東京・本郷の「菊富士ホテル」の応接間を飾りました。1944(昭和19)年のホテル閉館後は所在不明となっていましたが、近年の調査により発見され、昨年、岡山県・夢二郷土美術館に収蔵されました。夢二の油彩画は現存するだけでも約30点と少なく、本作はその来歴も含めて大変貴重な作例といえます。本展は、発見後初めて東京で公開・展示される機会となります。また本展では、《アマリリス》に加え、貴重な油彩画を多数展示し、これまであまり紹介されてこなかった油彩画家としての夢二の一面に迫ります。

《アマリリス》
1919(大正8)年頃 油彩・カンヴァス
夢二郷土美術館蔵

その２ 初公開のスケッチブックで晩年の夢二に迫る

夢二は、晩年の1931(昭和6)年から約2年間、アメリカをはじめ、ドイツ、チェコ、オーストリア、フランス、スイスなど欧州各地を巡る旅に出かけます。1930年代前半の欧米は、モダンな芸術と都市文化が急速に発展する一方で、ナチズムが勃興する不穏な時代でもありました。夢二は滞在中の出来事を多数のスケッチ帖に描き、その一部は友人であった正木不如丘（まさき・ふじょきゅう）の手元に残されました。正木は、夢二が1934(昭和9)年9月に亡くなるまで、半年以上にわたって献身的に治療と看病にあたった医師であり、文学者でした。これらの素描は長らく世に出されていませんでしたが、本展では初めて正木旧蔵資料であるスケッチ帖を公開し、晩年における夢二の足跡をたどります。

その３ 邸宅空間で、夢二の作品世界を味わう

夢二の仕事は画家にとどまらず、詩や童謡の創作、封筒や絵葉書などのデザイン、本の装丁や楽譜の表紙絵など、多彩な芸術活動を展開しました。さらには、「あらゆる図案、文案、美術装飾」を請け負う「どんたく図案社」の企画や、生活と美術を結ぶことを理念とした「榛名山美術研究所」の建設など、生涯を通じて人々の暮らしを彩ることに関心を向けました。本展の会場となる東京都庭園美術館の本館は、1933(昭和8)年に朝香宮家の自邸として建設された場所であり、実際の生活空間に施された多彩な装飾が見所となっています。本展は、夢二と時代の空気を共有し、暮らしの中の美を体現する邸宅空間の中で、夢二の作品世界をご覧いただく貴重な機会となります。

その４ 夢二の「かわいい」デザイン―時代を超える普遍性

1914(大正3)年に開店した「港屋絵草紙店」には、夢二が企画し、自らデザインした封筒や千代紙などの小間物類が並び、若い女性客を中心にして人気を集めました。夢二は、雑貨だけでなく、帯や半襟、浴衣などの身に着けるもののほか、おしゃれな本の挿絵や装丁も多数手がけました。草花や風景、物語などの身近なモチーフを題材に、明るくやさしい色彩を用いた図案は、日常生活に自然と馴染み、今もなお新鮮な印象を感じさせるものです。見る人誰にも夢二らしさを感じさせる独特のデザインは、彼の没後90年を経た今もなお私たちを魅了し続けています。本展では、時代を超えて愛される、夢二の「かわいい」デザインの世界を存分にご堪能いただきます。

左：《封筒「つりがね草」》
大正期 木版 夢二郷土美術館蔵
右：《封筒「どくだみ」》
大正期 木版 夢二郷土美術館蔵

会期中のプログラム

●講演会・ギャラリートーク

本展監修者や専門家による講演会、担当学芸員によるギャラリートーク等のイベントを予定しています。

詳細は決まり次第、当館ウェブサイトでお知らせいたします。

●フラットデー

東京都庭園美術館は、あらゆる方にとって居心地の良い場となることを目指し、来館するすべての人がフラットに、安心して楽しめる環境づくりに取り組みます。フラットデー開催日はオンラインチケットをご予約・購入済の方、障害者手帳等をお持ちの方や各種割引が適用される方、無料対象の方以外はお入りいただけません。あらかじめご了承ください。

① ゆったり鑑賞日

障害がある方も、ない方も、美術館をゆっくり楽しみませんか？

全体の入館人数を制限し、普段よりも空いた環境でゆっくりとご鑑賞いただける一日です。

多くの人で賑わう美術館に不安がある方も、車椅子の方や介助等が必要な方も、安心してお過ごしいただけます。

開催日時：7月10日（水）10:00～18:00（最終入館17:30）

② ベビーアワー

赤ちゃんと暮らすご家族のみなさんに気兼ねなく展覧会をご覧いただける時間です。

普段はベビーカーを使うことができない本館もベビーカーのままご入館いただけます。

開催日時：7月24日（水）10:00～15:00（本館内でベビーカーを利用できる時間）

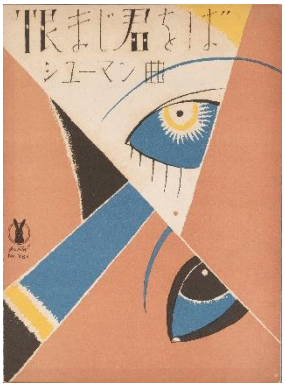
鑑賞ツアーを同時開催

フラットデー当日はアート・コミュニケータによる鑑賞ツアーも行います。

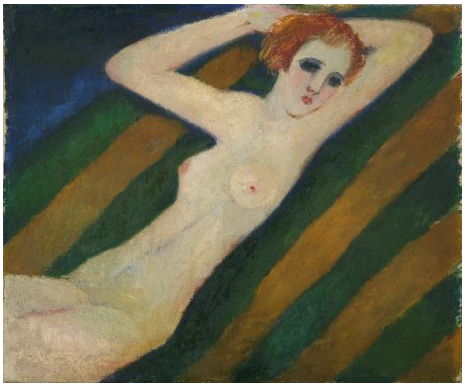
フラットデーの詳細はウェブサイトからご確認ください

会期中に開催される展覧会プログラムは随時追加される予定です。
詳細は決まり次第、当館ウェブサイトでお知らせいたします。

◎広報用画像



1	2	3	4
5	6		
7 8	9	10	
11			



1.《アマリリス》1919(大正8)年頃 油彩・カンヴァス 夢二郷土美術館蔵
2.《化粧の秋（『婦人グラフ』表紙絵）》1924(大正13)年 木版 夢二郷土美術館蔵
3.《星まつ里》昭和初期 絹本着色 夢二郷土美術館蔵
4.《林檎》1914(大正3)年 絹本着色 夢二郷土美術館蔵
5.《憩い（女）》昭和初期 絹本着色 夢二郷土美術館蔵
6.《セノオ楽譜〈恨まじ君をば〉》1924(大正13)年 初版 夢二郷土美術館蔵
7.《封筒「つりがね草」》大正期 木版 夢二郷土美術館蔵
8.《封筒「どくだみ」》大正期 木版 夢二郷土美術館蔵
9.《晩春》1926(大正15)年 紙・ペン・鉛筆・水彩 夢二郷土美術館蔵
10.《立田姫》1931(昭和6)年 紙本着色 夢二郷土美術館蔵
11.《西海岸の裸婦》1931-32(昭和6-7)年 油彩・カンヴァス 夢二郷土美術館蔵

展覧会広報　お問い合わせ先
東京都庭園美術館　広報担当：板谷（いたや）、斉藤（さいとう）　TEL. 03-3443-0201　Mail press@teien-art-museum.ne.jp